

り必要としません。稲作はコンバインや乾燥機などで、より多くの資本が必要です。

近藤さんは農業研修をされたそうですが、研修はブロッコリー栽培だったのですか？

(近藤) そうです。

4人グループの中で、今は2人で農業をされていますが、あとの2人は農業をされないのでしょうか？

(逢坂) 来年(取材時は12月)入ってくる予定です。今は会社勤めをしていますので…。



スタートするとき、家族が所有する農地があったのですか？

(近藤) 少しは農地がありました。農地は借りやすいということであまり考えずにスタートしました。

実家の畑で始めてみて、できそうだから他の畑を借りていったというのでしょうか？

(近藤) そうです。1年間の研修の前にも、試験的に2年ほど4人でブロッコリーを作っていました。

誰かに教わりながらですか？

(近藤) 営農センターの人に来てもらい、機械も人から借りてやっています。

仕事を辞める前の収入と比べると…。(二人) 低いです。

収入が低い中で、何をやる気になつたのでしょうか？

(逢坂) 今後の目標があります。

では、将来展望を教えてください。

(逢坂) 規模拡大して組織としてブランドを確立したいです。

大山町の支援体制などに要望があれば。

(逢坂) 町の支援に要望はないですが、もっと活気ある町にしたいです。

今は農協だけに卸しているのですか？

(逢坂) ブロッコリーは農協だけです。

大山恵みの里公社が

ありますが…。

(逢坂) ブロッコリー以外で出荷したことがありません。もう少し公社の販路があれば…。道の駅でももっと売れるのではないかと。

ブロッコリー以外はどんなものを？

(逢坂) 過去には、小松菜・ほうれん草・カブなどを米子の市場や店舗に卸していました。

TPPについてはどう思いますか？

(近藤) 時代の流れについていき、生き残っていくようにします。

自分で栽培したものを使って、レストラン経営などは？

(逢坂) 将来的にやるかもしれないですが、しばらくは農業だけでやっています。

雇用対策についてはどうですか？

(逢坂) 雇用にもつながらるようにしていきたいですね。

花の需要も多いですが、園芸やハウス栽培は考えていますか？

(逢坂) 園芸は考えていませんが、ハウス栽培は考えています。

農業を離れたときの楽しみは。

(逢坂) 家族や子どもと過ごす時間です。それと、お酒を飲むこと…。

(近藤) 家で飲んでいても農業の話をしていきますけどね(笑)。

### 取材を終えて

若い4人グループが目標を持ち、「農業はもうからない」と言われる中で、一つ一つ着実に芽吹かせている。彼らの目標である組織体制にするまでには、多くの苦難が待ち構えていると思う。

しかし、このグループの行動が大山町の起爆剤となり、波及することを願わずにはいられない。協力をしながら、見守っていくことが必要だと感じた。



【グループ名】  
ディースプランニング  
【メンバー(写真右から)】  
逢坂 崇さん  
小村直輝さん  
近藤啓太さん  
橋本竜一さん  
(橋本さんは平成24年1月から参加  
小村さんは未定)